

2019 年度 第 6 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

黒田恭司*₁ 岡田公治*₂

*₁ 日本アイ・ビー・エム *₂ 東京都市大学

6th Activity Report, December 2019: Committee of Study Groups

Kyoji Kuroda*₁ Koji Okada*₂

*₁ IBM Japan, Ltd. *₂ Tokyo City University

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。2019 年 11 月 21 日現在の各研究会活動の活動状況や予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立社会情報サービス)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動中です。



定例会の様子 (11 月 19 日)

<直近の活動実績>

10 月 15 日：第 114 回 定例会開催 (8 名)

「ワークショップ 2019 in 高松！」の準備、および最終確認を行いました。

10 月 25 日：ワークショップ 2019 in 高松！開催
香川大学にて「プロジェクトにおけるリーダーシップと、それを発揮する心の保ち方」をテーマに、第 11 回目となるワークショップを開催しました。約 30 名の方に、参加して頂きました。

11 月 19 日：第 115 回 定例会開催 (7 名)

「IT 技術者のためのメンタルケア」(前田英行)

IT 技術者のメンタルケアについて、ヒトの心

の仕組みを解き明かしながら、話し合いをしました。ヒトはグループで生きる方が種として生き延びる確率が上がる。しかしグループを形成するためには人間関係を構築する能力が必要となり、人間関係は現代社会の最大のストレス要因でもある。

幼児期に身につける「困ったときに助け合う力」「失敗を受け入れる寛容さ」「ケンカしても仲直りできる力」「トラブルを自分たちで解決できる力」「苦手な人とは適度な距離を置く力」が、大人になってからのコミュニケーションには重要であるし、IT 技術者にとっても然りであろう。

「配偶者との幸せ作りソリューション？～幸せ職員が増えれば、職場も成果も変わる！の紹介～」
(柴垣太郎)

財務省の HP に掲載されている「幸せ職員が増えれば、職場も成果も変わる！」(<https://www.mof.go.jp/pri/research/seminar/fy2019/lm20190611.pdf>)を参考に、配偶者との幸せな関係の育み方について、話し合いをしました。真の『働き方改革』で仕事にゆとりをもって、夫婦互いの永続的成長を確認しあうことが大切と、美しい結論に落ち着きそうになりましたが、女性は心＝共感を大切にする一方で、男性は事実を大切にするという、女性脳と男性脳には違いがあるので、なかなか一筋縄ではいかないのではないかと、和やかな雰囲気の中にも熱い議論が繰り広げられました。

<今後の活動予定>

12 月 18 日：第 116 回 定例会開催予定

1 月 15 日：第 117 回 定例会開催予定

2 月 19 日：第 118 回 定例会開催予定

【詳細問合せ先】pmmh_all@googlegroups.com

(2) 人工知能 (AI) と統計モデル研究会

(主査：梶山 昌之 ワイハット)

当研究会は人工知能 (AI) と統計モデルをプロジェクトで活用するための研究を行います。現時点の学習・研究テーマとしては以下の 5 つになります。

- ① ディープラーニング研究
- ② AI プロジェクト研究
- ③ Python の学習と活用
- ④ 統計モデルによる分析と予測
- ⑤ R 言語の学習と活用

AI プロジェクト研究では、Web で公開されている AI の学習教材である「Machine Learning Yarning」による学習を始めました。これは、AI を基礎から学ぶことができる英語のテキストですが、有志により日本語に翻訳された資料も利用できます。

このテキストの最初の章では、データ量と分析アルゴリズムの関係について説明しています。

図 1 では、データ量 (Amount of data) の増加に伴い、ロジスティック回帰などの古典的なアルゴリズムでは、処理能力 (Performance) が限界に達することを示しています。

これに対して、ニューラルネットワーク (NN) では大規模になるほど処理能力が向上します。

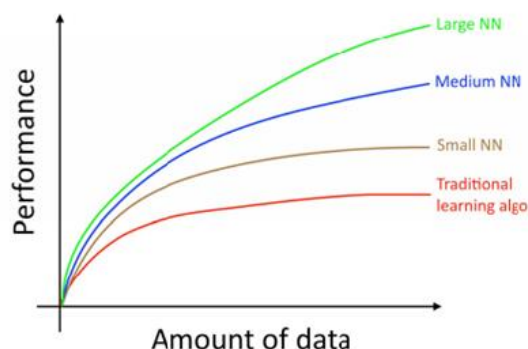


図 1 Amount of data and Performance

従って、問題の特性によっては、NN を活用の方が有利になると考えられます。

しかしながら、データが少ない場合は、古典的アルゴリズムしか使用できない場合も多く、当研究会では、分析者は両方のアプローチについて知る必要があると考えています。

本研究会に参加するメンバーの興味は、人工知能の理論から、プロジェクト開発への応用まで様々です。そこで、複数の分科会による少人数での活動を行っています。

<直近の活動実績>

9 月 25 日：ディープラーニング研究 (7 名)

<今後の活動予定>

11 月 29 日：ディープラーニング研究

12 月 2 日：AI プロジェクト研究

1 月 14 日：定例会開催予定

2 月 12 日：定例会開催予定

定例会は 2 回/月 (原則として第 2 火曜日と第 4 火曜日 (18:30~20:30)) に開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。当研究会では参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので、AI または統計が初めての方も気軽にご参加ください。

【詳細問合せ先】kajiyama@yhat.co.jp

(3) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査：中村 太一 国立情報学研究所)

フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会は、暫定的に隔月の例会開催となっています。

今年後半は、リーダーシップをテーマに“世界に通用する日本型プロジェクト・リーダーシップはあるのか?”をテーマにリーダーシップと文化について、隔月の第 2 木曜日に開催しています。

10 月 31 日の例会では、メンバーの越後氏による前回の話題「GAFA にみるアジャイルの強さと～自立型チームのパフォーマンス～」の続編で、日本におけるアジャイル開発の課題について活発なディスカッションが持たれました。その後、当研究会の副査である永谷氏より、「DX 時代を迎えて、日本の IT プロジェクト体制の課題」の話がありました。日本の IT プロジェクト体制の主流である、受託型、ベンダー主導、ユーザー不在の開発体制は、ユーザーのビジネス戦略を実現するプロジェクトの在り方として、課題があり、その課題を最近の SoE (Systems of Engagement) 型プロジェクトを巡る IT 紛争を例にとりながら、失敗に至る要因、回避策について、議論を重ねました。回避策としては、ユーザーのプロジェクトへの積極体関与、ベンダーの受身体制の脱却などがあがられました。

<今後の活動予定>

12 月 12 日：例会開催予定

「DX 時代のリーダーシップ」予定

【詳細問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

(4) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行っています。昨年度は、若手 PM 向けリスク・マネジメント研修を開発・実施いたしました。今年度も引き続き、リスク・マネジメント研修についての検討を進めています。また、機械学習を用いたリスクの洗い出し方法についての検討を実施しています。

＜今後の活動予定＞

12 月 4 日：定例会開催予定

1 月 19 日：定例会開催予定

2 月 26 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

(5) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点か

ら、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

体系化の一環として、街づくりプロジェクトの導入・展開における基本的な考え方や留意事項を取りまとめたガイドラインを作成中です。

【詳細問合せ先】yamamotot@nttdatacs.co.jp(山本)

(6) PM 人材育成研究会

(主査：黒木 弘司)

PM 人材育成研究会は、2019 年 12 月をもって活動を終了いたします。

【詳細問合せ先】pmcom2016@freeml.com

2. その他

活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

研究委員会 委員長	黒田 恭司
研究委員会 副委員長	岡田 公治